

新米教師 1 年目の反省

青柳 琴弓（新ひだか町立静内第三中学校 教諭）

昨年度 4 月、私は初任校として日高管内の新ひだか町立静内第三中学校に赴任した。1 年を経て感じた反省点などを、率直に書いていきたい。

〈地域・学校の実情〉

日高といえば、北海道で一番学力が低い。これは、全国学力・学習状況調査の結果を見れば明らかなことである。しかし、日高管内の子ども全員の学力が低いわけではなく、地域差のようなものがあるのが実情である。私が赴任した新ひだか町は、日高の中でもとりわけ学力の低い地域であると言われている。

新ひだか町は、四つの中学校がある。そのうち 1 校は年度内の閉校が決まっており、2 校は日高管内で最も大きな学校である。私が赴任した静内第三中学校もその 2 校の中に入っている。静内第三中学校は、学力の低さと生徒数の多さからか、学力向上に関する指定事業を受けており、学校全体を上げて学力向上に努めているところである。

生徒は、素直で素朴な子が多い中で、家庭の事情により、愛に、特に母親からの愛に飢えている子が多い。そのためか、自己肯定感が低く、何に対しても自信が持てない。また、町内に高等学校が 2 校あり、学力が低くても進学ができるため、学力に対する関心も低く、「学力が高くて、別に役に立たない」「学力が低くても、別に困らない」という考えがある。3 年生になると、それなりに関心を持つようになるが、それでも個人差がある。また、小学校からの「躰」がなされていない。座り方、話を聞く態度といった基本的なことが出来ておらず、また我慢ができずに授業中にも関わらず話したいことを話すという状態が見受けられる。まずは、学習規律の確立から求められている。

〈昨年度の実情〉

昨年度は、1 年生 3 学級、3 年生 1 学級を担当した。何とか国語のおもしろさが少しでも伝われば良いと思って授業を行ってきたが、その中で、周りの方から良く指摘されたことは、「淡々としている」「授業内容が難しい」ということだった。私が行う授業が生徒の実態にあっておらず、それがより国語を難しく感じさせていたのだ。

・授業崩壊

私が授業を改善できないままにいたために、1 年生のある 1 学級で授業崩壊が起こってしまった。半数近い生徒が「先生」の話を聞かなくなる、指示が通らなくなる、私語が止まらない、といった状態になってしまった。時期としては、2 学期の学校祭が終わった頃から、およそ 2 学期いっぱいまでの期間であろうか。その間、「国語の先生」が学級の中で不要となり、国語への意識を著しく低下させてしまった。

この状態を何とかしたいと考え、崩壊した学級の担任やベテラン教員に相談した。いただいたアドバイスは、「しっかりと目的意識を持たせること」「生徒と同じ目線に立つこと」だった。また、国語の時間や学活の時間をいただき、生徒たちと話し合いも行った。しかし、次の時間はよくなっても、すぐに戻ってしまう。また、校長に相談もした。その中で、

「生徒も悪いが、先生が悪い。上から目線になっている。生徒を惹きつけるトーク力もない。淡々と授業が進んでいるだけ。だから崩壊するんだ」と指摘された。気づいていることではあったが、改めて指摘されるとショックであった。

しかし、どうして良いかわからず、グループ活動を取り入れてみたり、一単元があまり長くならないように、飽き来ないようにしてみたりしたが、グループ活動は真面目に授業を受けている生徒たちの迷惑になるだけとなってしまい、単元の長さも、授業をより淡々とさせてしまうだけとなってしまった。

一人では授業が成立しなくなったため、支援員や担任、管理職に入っただき、複数体制で授業を行うこととなった。

・光明

辛い状態が続いたが、気持ちがラクになる言葉があった。それは、支援員に言われた一言だった。「中堅の男の先生が生徒をグッと押さえつけると、生徒はストレスが溜まる。そのストレスの捌け口は、決まって若い先生。特に若い女性の先生。だから、生徒は青柳先生に甘えているだけ。姉のように、時には母のように接するのが、女性の先生に求められていること。」よく考えると、この学年と接する女性教員は私だけだった。少し気持ちがラクになり、生徒と温かい気持ちで接することができるようになった。

3学期に入り、授業妨害をしていた中心生徒の私生活が充実し、また生徒自身も少し大人になったためか、2学期より落ち着いて授業を行うことができるようになった。

〈成果〉

今年度、私は学年を持ち上がることはなく、再び1年生を持つこととなった。新2年生の新しい国語の教科担当から聞いたところ、どんなに学力が低い子でも辞書を引くことができる・辞書を嫌がらないという。また、昨年度の国語で印象に残っていることを聞くと、特別な支援が必要であった生徒が『竹取物語』の暗唱」と答えたそうだ。暗唱は、全員が合格するまでしつこく練習させたものだった。

授業崩壊させてしまったが、生徒に妥協なく身につけさせようとしたことは、しっかりと身につけているということが実感できた。

〈今年度に向けて〉

昨年度の反省から、次のことに注意しようと考えている。

学習規律について、できないことを強要しない。

生徒が輝ける場を作る。

具体的にいうと、生徒が立って教師の所へテスト受けたり、成果を見せたりする機会を作る。そして、1時間の授業の中で、教科書を進めるだけではなく、複数の教材を扱い、切り替えを行い、集中して一つ一つのことに取り組む環境を作ることだ。例えば、

暗唱（月始めのみ）→漢字の練習・テスト→教科書→五色名句百選カルタ（暗唱がない時のみ）

少しでも、国語への苦手意識をなくし、国語が好きになるように、工夫していきたい。